

復活の主日

ヨハネ 20・1-9

2022.4.17

カトリック高円寺教会 9:00 ミサ

ジョン・ジュン神父 (クラレチアン宣教会)

暗闇といえば、恐怖と死と悪魔です。子どもの頃、よく大人から「夜は鬼が出るよ」と聞かされてきました。自分が大人になると、暗闇は静かなものだと感じるようになりました。中年になると、世間で色んな事を経験し、色々な苦難を見た後の暗闇は人間の心の苦しみを表しているとも思えました。

新型コロナで人々が恐怖を感じています。

ロシア兵士とウクライナの戦争で、暗闇を見せられました。

人々は生きるため、故郷を捨て、家族と離れ離れになり、苦しみや死、飢餓、恐怖などをもたらした暗闇は消えていません。

イエス様は殺され、使徒たちは四方に逃れました。彼らは自分たちも殺されると恐怖を感じていたからです。死の恐怖が勝ち、世界は支配されました。権力と暴力と不義、裏切りは人の命に勝ちました。だから、人々は希望を無くし、これからどうすれば良いのか、どこに行くべきか、何をすれば良いのかすら分からなくなっていました。

福音の中にある、主人公のマグダラのマリアは、いかにもかよわそうな人に見えました。しかし、彼女は恐怖に負けず、一人でイエスのお墓に行きました。“週の初めの日、朝早く、まだ暗いうちに”。彼女はとても勇気がありました。彼女が“墓から石が取り除けてあるのを見た”、そのとき世界が変わりました。一筋の光がお墓に差し込み、弟子たちも目が覚めました。彼らは急いでイエスのお墓に向かって走りました。この一筋の光が弟子たちに希望と奇跡をもたらしました。一番最初に入った人は、イエス様の復活だと信じました。しかし、他の人たちは“イエスは必ず死者の中から復活されることになっている”という聖書の言葉を理解できませんでした。

人は死を直面する時は色々な感情が溢れます。その時は気持ちをどう整理したいですか？ 諦める、泣く、過去の記憶に留める。それとも、イエス様の光を自分の心の中に受け入れて全てを神様にお任せしますか。神様に委ねるとわたしたちが救われます。

マグダラのマリアはこの信仰の光を弟子たちに伝えました。そして、シモン・ペトロとその他の弟子がこのことを知りました。名前をはっきり記載されていませんが、おそらくヨハネの弟子だと思われます。従って、名前がはっきり記載されていないということは、イエス様の弟子であること、わたしたちがその一員になれるとも言えます。

人生の旅は暗闇を通る必要があります。わたしたちは生活の中で異なる挑戦に直面する勇気と自信が必要です。がっかりしたり、苦しんだり、失敗したり、病いや精神的な病気など。しかし、イエス様の復活を信じることによって、全ての人生が変わります。彼は死を乗り越え、復活されましたから。

わたしたちも福音の中の人になれます。マグダラのマリアの勇気と諦めない精神のような人になるのかもしれませんが。ペトロのように神様を疑ったことのある人になるのかもしれませんが。そして、その他の弟子、聖書に書かれていない名前のヨハネのように神様の事を聞いて信じる人になるのかもしれませんが。神様を信じることでわたしたちが生まれ変わります。

本日のミサで、ウクライナの人々や生活が大変な人々のために一緒に祈りましょう。神様の平和と慰めが、皆さんを癒すことができますように祈りましょう。